

適塾かわら版 巻九

「適塾かわら版」は大阪大学適塾記念センターのニュースレターです。



大阪大学適塾記念センターとは

2011年、大阪大学創立80周年を機に適塾記念センターが設立されました。適塾運営・大阪学・オランダ学の三部門を擁し、適塾建物および歴史資料の維持管理、近世以降の大阪の学問・文化や日蘭関係史の研究を行うほか、阪大の源流の一つである適塾を顕彰するため、見学会・展覧会・講演会等の様々な社会教育事業を展開しています。



【令和六年度のイベント】

◎適塾特別展示「三人の藤野先生、その生涯と交流―升八郎と洪庵・徹九郎と魯迅、恒三郎と遼太郎―」

（於 総合学術博物館 待兼山修学館・4/24～6/22）

適塾で学び地域医療に尽力した升八郎。仙台医学専門学校・東北大学医学部の前身に留学した魯迅を熱心に指導した徹九郎。腸炎ヒブリオを発見した第四代大阪大学微生物病研究所長・恒三郎。三人の「藤野先生」の生涯と交流について、藤野家に伝来した資料を中心に紹介しました。



◎洪庵忌―適塾のタベ―

（於 適塾・6/10）

森村泰昌（人文）「『適塾のつどい』ができるまで―現代の適塾を考える―」※オンライン配信

<https://www.youtube.com/watch?v=GD4bKduMhE>



◎適塾講座「病気を環境する」（於中之島センター）

池田光穂（元・CO）「子どもたちに『感染症と人類の歴史』を伝える」（10/21）

祖父江友孝（内閣府）「食品から摂取されるカドミウムの健康影響評価」（10/24）

住村欣範（G1機構）「人間と動物がつくりだす環境と健康」（11/27）



覚

- 一 適塾関係資料画像データベース
<https://www.archive.tekijuku.osaka-u.ac.jp>
- 一 公式 Facebook
<https://www.facebook.com/TekijukuCommemorationCenter/>
- 一 図録『新版 緒方洪庵と適塾』
定価 本体900円＋税 購入は適塾窓口にて
- 一 適塾建物3Dモデル
https://sketchfab.com/Tekijuku_UOsaka/models
- 一 学生スタッフ Instagram
https://www.instagram.com/tekijuku_and_koan/

適塾記念会 入会のススメ

適塾記念会は緒方洪庵・適塾およびその関係者の業績を顕彰し、大阪の学問・文化の伝統を発信することを目的に、1952年に創設されました。また適塾建物や適塾関係資料等の文化財保護活動にも取り組んでいます。適塾記念会に入会し、これらの活動にご支援・ご協力をお願いします。



会費	普通会員	年間1口	2,000円
賛助会員	年間1口	10,000円	

いずれも複数口での申し込み可。

申込「大阪大学知の広場」

要ユーザ登録。（左記URL・QRコード）。

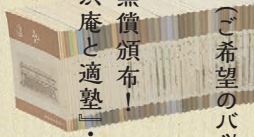
<https://open.univ.osaka-u.ac.jp/tekijuku/>



会員特典

- 特典① 適塾の参観料がいつでも無料に！
- 特典② 適塾見学会（年2回、前ページ参照）の無料参加が可能に！
- 特典③ 会誌『適塾』（年刊）を無料でお届け（ご希望のバックナンバーも）！ 投稿資格もあり！
- 特典④ 『大阪大学適塾記念センター所蔵 適塾関係資料目録』を希望者に無償頒布！
- 特典⑤ 適塾で販売する図録『新版 緒方洪庵と適塾』・絵葉書が1割引きに！
- 特典⑥ イベントの案内を随時お届け！

※詳細については大阪大学適塾記念センターHPをご覧ください。



大阪大学適塾記念センター ニュースレター「適塾かわら版」巻九
編集・発行：大阪大学適塾記念センター デザイン・印刷：cocotier
〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-13 大阪大学会館内 電話 06-6850-5016
<http://www.tekijuku.osaka-u.ac.jp> 2025年5月15日発行

適塾人物かみ

其ノ九 大島 高任

おおしま たかとう
 鋳業技術者 盛岡藩御鉄砲方
 佐渡鋳山局長 日本鋳業会会長(初代)
 生没 文政九年(明治三四年)1826~1901
 出身 陸奥国岩手郡盛岡仁王小路(岩手県盛岡市大通)
 業績 大橋高炉築造(1857)、佐渡鋳山開拓

盛岡藩医・大島周意の長男として誕生、周禎、総左衛門を名乗り、新政府に出仕した明治一年(1869)に高任と改名した。天保一三年(1842)に江戸へ出て算作院甫・坪井信道に蘭学を学び、長崎・大坂にも遊学した。兵学・砲術・採鉱・冶金に興味を示し、長崎では長州藩士・手塚律蔵と反射炉(金属の溶解・精錬炉)築造書「ロイク王立鉄製大砲鑄造所における鑄造法」を翻訳した。その後、水戸藩に招かれ、那珂湊に反射炉を建設し、大砲鑄造を行っている。安政四年(1853)には盛岡藩の大橋・釜石市甲子町大橋に洋式高炉を建設し、橋野鉄鋳山の鉄鋳石を原料に、日本初の高炉法での出鉄に成功した。高任は「近代製鉄の父」と呼ばれ、現在も日本製鉄北日本製鉄所がある釜石は近代製鉄産業発祥の地とされる。文久三年(1863)には盛岡に本格的な洋学校「日新堂」を創設し、明治政府では坑師学校(専門学校)や工学寮(現・東京大学工学部)の設置を進言して創設に携わった。岩倉遣欧使節に随行して欧米の鋳山を視察し、鋳山開発や鋳業指導で製鉄の近代化に努力した。



大島信蔵編修「大島高任行実」(1938)

「坑業は百工中に在て
 国家を益するの最大
 なる者なり」
 (工学寮新設に関する意見書 1870)

適塾見どころ

其ノ九 中庭



表屋と主屋を隔てる！

適塾建物の建築様式を町家といえます。いわば町家の店舗兼住宅で、通りに面した表屋が店舗部分、奥の主屋が生活空間となっています。元々の所有者は豪商の天王寺屋で、洪庵が弘化2年(1845)に買い取ってから表屋は医院として機能しました。中庭は表屋と主屋を空間的に隔てる役割を持っていました。

質素かつ贅沢へ！

大坂の町人は表立って贅沢することは出来ませんでした。というのも、淀屋橋を建造した豪商の淀屋が宝永2年(1705)、町人自身には過ぎた驕奢な生活を理由に關所処分(取り潰し)を受けたからです。適塾建物の表屋は質素、主屋は贅沢な造りとなっており、中庭はこの異空間をつなぐ場でもありました。

ツーフ部屋があった？！

ツーフ部屋は現在、二階の塾生大部屋の隣室とされています。しかし一説には、洪庵の書斎から中庭に出る廊下(写真右手前の位置)に三畳ほどの小部屋があり、ここがツーフ部屋だったといえます。二階の方は戸板一枚を隔てて女中部屋があり、塾生たちが夜中まで勉強に励んだ場としては疑問が残ります。ツーフ部屋は中庭に面していたかも知れません。

適塾参観案内

【最寄り駅】京阪淀屋橋駅・北浜駅、
 大阪メトロ淀屋橋駅下車 徒歩5分
 【開館時間】午前10時～午後4時
 【休館日】月曜日(国民の祝日は開館)
 国民の祝日の翌日(土・日・祝は開館)
 年末年始(12月28日～1月4日)
 【参観料】一般 400円
 高校・大学生等 200円
 中学生以下 無料
 ※適塾記念会会員および阪大生は無料！
 住所：大阪市中央区北浜3丁目3-8
 電話：06-6231-1970

荷物を預けて快適に見学できます。

求む！
 “一口適塾生”

大阪大学未来基金「適塾記念事業」より1口1万円以上をご寄付ください。
 後日、「一口適塾生」のご案内をいたします。https://www.miraikikin.osaka-u.ac.jp/project/tekijuku

令和5年夏季適塾見学会開催

夏季見学会

「適塾とその周辺をたずねる」

●「適塾かわら版」巻二参照

参加者の声

本物を見ることができて、しかも、続けて、歩いてみることで、時代の経過についても考えるようになりました。書物とメディアで勉強するのは、一味違うと感じました。(夏季)

秋季見学会「岡山県立博物館」

特別展「緒方洪庵―その生涯と郷土岡山―」

プロローグ

誕生 洪庵と足守

文化7年(1810)、足守藩現・岡山市北区足守)の藩士・佐伯惟因(快翁・キヨウ夫妻)の三男として、緒方洪庵は誕生した。武家に生まれた洪庵だが、幼少から病弱であった。



佐伯快翁・キヨウ肖像画(1843)

エピソード

後続 洪庵が遺したもの

洪庵の薫陶を受けた者たちは、その持つ能力を社会のために役立てていった。例えば長与専斎は、初代内務省衛生局長として衛生行政の基礎を築いた。あるいは有名人でなくとも、地域医療の発展に貢献した者も多かった。

魔木有初 終

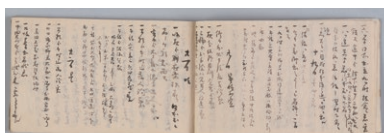
明和四年(1768)年終

大島圭介書(1881)

第5章

覚悟 最後の帰省と江戸での死

文久2年(1862)4月、洪庵は母の米寿祝いのため帰郷した。これが洪庵最後の親孝行となった。というのも、以前から要請があった幕府奥医師への就任を、討死に師への就任を、8月に大坂を発った。江戸での生活は心身共に負担が大きく、洪庵は翌年6月に急逝した。

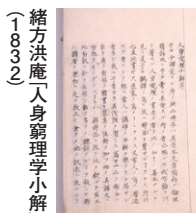


「壬戌旅行日記」(1862)

第1章

成立 学問修業

大坂蔵屋敷留守居役となった父に付いて大坂に出た洪庵は、かねてから心に秘めていた医者となる決意を父に打ち明け、蘭学者の中天游に師事した。その後、江戸の坪井信道・宇田川榛斎に学び、蘭書の翻訳も始めた。



緒方洪庵「身窮理學小解」(1832)

第2章

開塾 教育者として

長崎留学を終えた洪庵は天保9年(1838)、大坂に蘭学塾を開いた。この適塾には全国から活発な有為な人材が集い、自学自習に励んだ。完全実力主義の適塾では合理精神が育まれ、門下生たちは近代化を牽引していった。



「ツーフ・ハルマ」写本

第3章

活躍 学者として、医者として

教育のかたわら、洪庵は蘭学者・蘭方医として活動した。当時の蘭学者が渴仰したフーフェラン(独)の内科医書の翻訳に歳月を費やし、感染症対策として種痘の普及やコレラ治療に尽力した。



緒方洪庵「除痘館記録」(1860)

第4章

思想 洪庵の「こころ」

洪庵は医者としての倫理観を「扶氏医戒之略」として抄訳し、自戒とする一方で、弟子たちにも諭した。退塾後の門下生とは書状のやり取りを続け、よく「道のため」「人のため」と説いた。



緒方洪庵書「臨事無為慎丈夫」(年未詳)

参加者の声

とても良く、緒方洪庵について良く解りました。解説が素晴らしい。(秋季)